ITP-EUROPA 派遣報告書

モハンマド・ファトヒー
エアランゲン大学

1. 派遣計画の概要

私は 2009 年 10 月 1 日から 2010 年 8 月 31 日まで、ドイツのバイエルン州エアランゲン市にあるエアランゲン大学に派遣されました。エアランゲン大学では、メヒティルト・ハーバーマン教授の指導のもとで研究を進めました。私の研究テーマは「日本語とドイツ語における動詞型名詞修飾表現の対照研究」です。

日本語の連体修飾は、「この本」、「学生の本」、など、連体詞や「の」によるものと、「学生が買った本」や「表紙の汚い本」など、節によるものもあります。研究の対象は「学生が買った本」、「学生が本を買った（という）事実」などのような動詞述語を持つ連体節です。

日本語の連体節はドイツ語の関係文や dass 等で導かれる付加語文にだいたい相当します。私は執筆中である博士論文のうち，特にドイツ語を対象とする部分についてエアランゲン大学のドイツ言語学講座の主任であるハーバーマン教授や他の先生方の指導の下で執筆を進めることを目標にしていました。

また，ゼミや研究会での発表を通して，これまでに収集したデータの解釈やそれに基づく仮説についても見直すことも目標の一つでした。

更に、派遣中の研究成果を論文として学術雑誌に投稿することを目標にしていました。

2. 派遣の成果

2009 年 10 月には、まず指導教授であるハーバーマン教授と派遣中の研究計画について詳しく話し合い、研究に必要な文献やデータの収集・分析方法に関するアドヴァイスを頂きました。派遣期間の最初の二ヶ月はハーバーマン教授と週に一回会っていました。また、教授の授業にも出席していたため、三ヶ月目から、質問などがあれば、授業後、教授と話すことにしていました。派遣期間中の具体的な成果を次の三点に沿い、簡潔に説明させていただきます。

2.1 文献の収集・精読

派遣中には、論文の執筆に向け、日本で入手できなかった文献を収集しました。ドイツ語の文献はもちろん、研究テーマである名詞修飾に関する英語の文献も参照しました。英語における名詞修飾を扱う文献の他に、類型論の観点から名詞修飾を扱う文献も精読しました。英語における名詞修飾を扱う博士論文なども読みました。

日本語に関する文献が必要になったときは、日本語学科付属図書室から借りることができました。

2.2　データの整理・分析

これまでに電子コーパスや紙媒体の小説などから収集したドイツ語の動詞型名詞修飾表現のデータをさらに増やし，整理・分析すると共に，母語話者インフォーマントの協力を得て，作例などのチェックを行い研究対象となる名詞修飾の各表現形式の意味・用法を調査しました。

2.3　ゼミでの発表

シュテファン・シーアホルツ教授の「名詞句」をテーマにしたゼミナールでは、ドイツ語の付加語文について発表しました。シーアホルツ教授には報告者の研究対象に関するデータ収集や分析の方法についていつも助言して頂きました。

2.4　研究成果の発表

東京外国語大学大学院ドイツ語文学研究会編の『Der Keim』第 33 号に *Zur Konkurrenz von attributiven Infinitivkonstruktionen und Dass-Sätzen*　（zu 不定詞句と dass 文の競合について）というテーマの研究ノートを投稿しました。研究ノートの執筆に際して、エアランゲン大学講師のシュテファン・ガーゲル先生がアドヴァイスをしてくださいました。

2.5　語学力向上

春休みに行われる上級者向けドイツ語講座や学期中行われる留学生向けのドイツ語授業に参加しました。講座では、会話や読解の練習の他に、発表トレーニングを行いました。

2.6　博士論文執筆

2010 年 5 月には博士論文執筆に向けて､そのサブテーマに関する小論文をまとめる形で、博士論文の執筆作業を再び開始しました。派遣中にはドイツ語と日本語の複文における名詞修飾節の位置づけ、ドイツ語の複文の下位分類やその問題点、ドイツ語と日本語の内容修飾表現におけるムード表現形式等のテーマを取り上げ、博士論文執筆に向けて、以前書いたものをまとめ直しました。

3.　今後の課題・問題点

派遣終了後は，個々の研究成果をまとめながら，学術雑誌などへ投稿し，その積み重ねによって博士論文を完成させ、東京外国語大学大学院に提出したいと思います。